

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2 【かかわる】	<p>⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。</p> <p>⑭【復旧・復興への歩み】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。</p> <p>⑮【東日本大震災の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。</p> <p>⑰【自然災害の歴史】 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次世代へ語り継いでいく。</p> <p>⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】 避難場所や避難方法、避難経路を把握して安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線について理解し、学校や家庭でできる対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。</p>	総合的な学習の時間
3 【そなえる】		

【題材】

体験から学ぶ（宮古市田老地区見学，岩手県防災センター）

【対象】

第5・6学年（5年 男子27名 女子28名，6年 男子22名 女子21名，計98名）

【実践の概要】

『体験から学ぶ』ということに主眼を置いた教育活動を組み立てた。震災津波により被災した地域の様子を自分の目で見たり、被害にあわれた方の話を自分の耳で聞いたりするという体験及び横軸連携校の田野畑小学校への募金活動などを通して、児童一人一人が得た思いや気付きから学びを広げるようにした。

具体的には、5・6年生が宮古市田老地区を見学した。自分たちが見聞きしたことから感じたこと、そして、自分たちにできることを考え、作文や新聞にまとめ、発信した。

【実践の詳細】

(1) 事前学習（5・6年共通）

- ・震災当時のことを調べる。
- ・今の被災地の様子を調べる。
- ・復興に向けた取組について調べる。



〔DVD 視聴と説明 田老観光ホテル〕



〔宮古市田老地区防潮堤の見学〕

(2) 被災地見学を通して

（5・6年共通）

- ・宮古市田老地区を訪問する。
- ・自分の目で被災地の様子を見る。
- ・『田老観光協会学ぶ防災』語り部の話から当時の様子や現在の状況等を把握する。
- ・被災地の田野畑小学校への募金活動。
- ・自分たちの住んでいる地域の防災マップを作る。（各地区の取組）

（6年）

- ・震災学習列車に乗り、語り部の方から体験談や復興状況を聞く。
- ・田老地区の避難道路を実際に歩き、語り部から説明を受ける。
- ・社会科見学で防災センターを訪ね、学習を深める。

(3-1) 自分が見聞きしてきたことを発信する。（5年のみ）

- ・被災地見学の振り返りをし、見学のまとめをする。

(3-2) 被災地のためにできることを考え、実行する。（6年のみ）

- ・被災地見学の振り返りをし、見学のまとめを行う。
- ・まとめたものについては、掲示や表現活動により発信する。
- ・被災地のために自分たちに何ができるのかを考え、実行する。



〔震災学習列車 三陸鉄道北リアス線〕

【授業の展開】

◆5年生の展開〔実践の詳細の（3-1）〕

- ①学習活動
 - ・見学から見聞きし感じたことから、伝えたいことを考える。
 - ・発表の準備をする。
- ②支援や準備
 - ・発表方法を選択させる。
 - ・模造紙、新聞、スピーチ、作文、写真活用インタビュー形式 等
- ③学習を通しての子どもたちの様子

5・6年生とも課題意識をしっかりともち、とても真剣に学習に取り組むことができた。事前に震災の様子を調べ、被災地域を目の当たりにすることで意欲が高まり、子どもたちは、終始一貫した主体的な学びの姿勢で学習を進めていた。また、被災地の見学を行った9月12日は、震災から3年半を経過したひとつの節目であったこと。新聞報道等でも特集で取り上げていたこともあり、それが子どもたちの学習を支えるよい材料となった。

◆6年生の展開〔実践の詳細の（3-2）〕

- ①学習活動
 - ・自分たちにできることを考え、調べ、実行する。
- ②支援や準備
 - ・分かりやすく発信させる。
 - ・感じたり学んだりしてことを、しっかりと伝えさせる。
 - ・相手の立場になって考えさせる。

【児童の感想】

◆5年生

・被災地を見学し、被害の大きさを目にして災害の恐ろしさを感じました。津波が来そうなときは、一人でもすぐに高台に逃げることの大切さを痛感しました。

・津波が3分で街をのみこむ様子のDVDを見て、恐ろしさを感じ、命の大切さを被災地の人たちは私たちに伝えていることを学びました。そして、真剣に協力・支援のしかたを考えることができました。

◆6年生

・震災復興列車では、語り部の方が実際に津波にあい、助かった体験を話してくださいました。助けていただいたときにもらった、りんごひとつのありがたさのお話がじんとしみこみました。

・田老の町を昨年と比べてみる事ができました。実際に避難道路を上がってみて、防災の心構えが大事だと思いました。

・学習発表会で、児童会、福祉委員会を中心に田野畑小への募金を行いました。全児童、保護者、来校者より募金をしていただきました。被災地の復興に役立ててほしいです。



〔各地区で作成した防災マップ
学習発表会のとき体育館に掲示〕



〔田野畑小への募金活動〕



〔防災センターの見学〕

【まとめ】

自分の目で被災地を見て、語り部の皆さんのお話を実際に聞くことで、「体験から学ぶ」という学習のねらいは、十分に達成することができた。特に6年生は、2度目の被災地見学ということ、北リアス線に乗車して被害を受けた沿岸の様子を見ることで、被災地に住む人やそこで働く人々への思い、復興の進捗状況などを肌で感じる事ができた。また、県の防災センター見学や地域の防災マップ作りなどを通して、災害が身近に起こり得ることであり、その備えをしていくことの重要性も感じる事ができた。

来年度以降は、被災地見学に限定せず、全校で3つの教育的価値を育てていくために、「道徳教育」「ボランティア教育」「防災教育」の3つの教育活動に重点を置き、具体の項目の実践を積み重ねていくようにしたい。また、これまでの教育活動を充実させ深化させるよう、年間指導計画等の見直しをしていきたい。